

動く商店街「モービルタウン」による都市機能提供

樋野公宏(建築研究所)、渡和由(筑波大)、鈴木亮平(東京大)

動く商店街「モービルタウン」は、生活サービス機能、交流機能など従来の商店街が持つ都市機能をユニット化し、必要な時、必要な場所（徒歩圏）に自動車で運び設置される。旧来の商店街と同様に、物販だけでなく、医療、福祉、文化など様々な機能が、様々な組み合わせで集合する空間を創出するものである。

これは、短期的には仮設住宅地への都市機能提供、地域商業再建や雇用創出で被災者を支える。頻度や時間、運ぶ機能を柔軟に変えながら被災者のニーズに応えることができ、土地利用上の制約や財源の関係で都市機能を常設できない地域でも運用可能である。また、モービルタウンは人々が集まる空間を創出するため、地域住民が自然に顔を合わせる機会を生み、被災者の孤立を防ぐ役割も果たす。

長期的には散在する集落の買物弱者や交通弱者を支える。被災により高齢・過疎化、地域商業の衰退に拍車がかかることが予想されるが、徒歩圏の利用を前提とするモービルタウンは高齢者でも歩いて利用できる。なお、副次的効果として、歩行による利用者の健康増進、環境負荷低減が期待される。

被災地において、農漁業関連施設は行政が介入して集約化が検討されているが、商業施設は市場に任せられ、結果として身近な小規模店が淘汰され少数の大規模店が残るといふ、望ましくない形の集約化が懸念される。モービルタウンは利用者が出資、経営参画し、利益を還元するコミュニティビジネスとして運営され、こうした市場の失敗を補完する。

本提案は都市計画分野で喧伝される「コンパクト・シティ」の逆の発想である。すなわち、機能を固定せず動かすことで、現状の地域の良さ、豊かさを保持しながら、都市機能を楽しむことができる。このように、モービルタウンは被災地の復旧・復興を契機に、わが国のこれからの都市デザイン、都市形態のあり方、新たなライフスタイルを提示するものである。



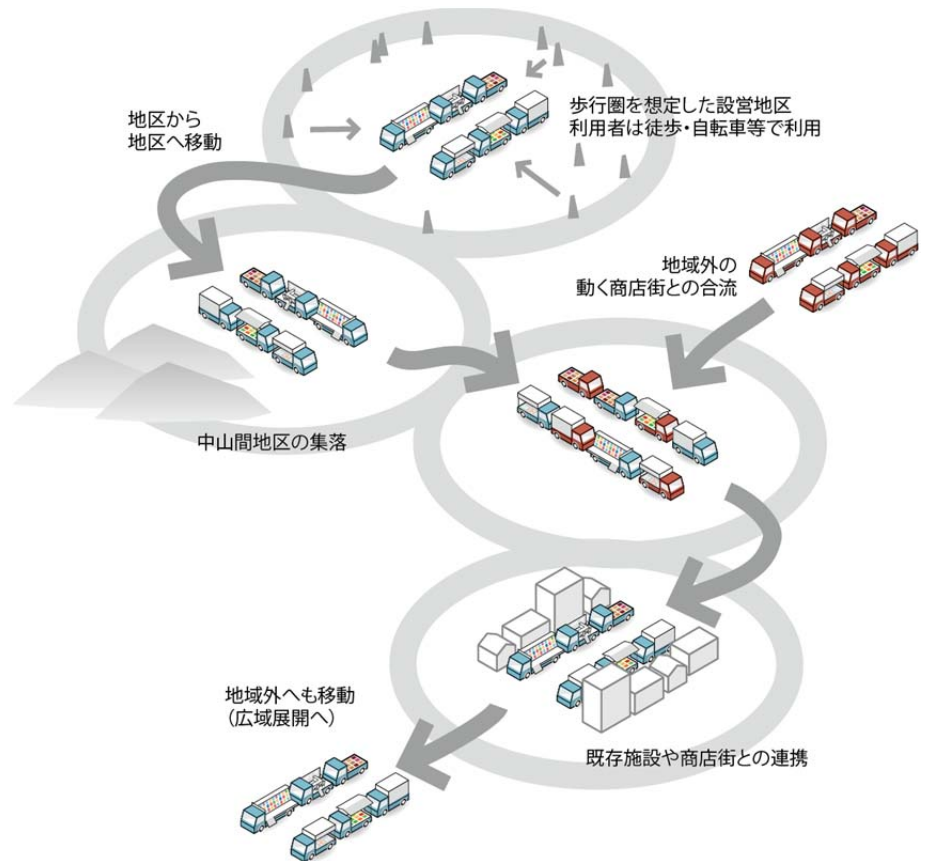
動く商店街のユニットイメージ

: トラックの荷台を改造した多様な用途と機能



動く商店街の設置イメージ

: 街路・広場空間を創出し人々の交流を生む



動く商店街の圏域と移動イメージ